

収蔵標本

プロトプテルム (ペンギンモドキ) 網走標本

7番目の完模式標本に

陸上の生活に適応した哺乳類のいくつかの種類(クジラや海牛類・デスマスチルス類・鯨脚類[アザラシやトド]など)が海に生活の場を移したように、一度空を飛び出した鳥の中にも水に進出したものがあります。海生鳥類としてはペンギン類が有名です。

ペンギンは、南半球の動物です(例外はガラパゴスペンギンの一部)。北半球には、代わってプロトプテルム(Plotopterus)が出現し、ペンギンと同じような生活スタイルで暮らしていたと考えられています。3000~1000万年前のことで、デスマスチルス類の生息期間とよく似ています。

プロトプテルム網走標本は、1987年に発見され、北海道教育大学の木村教授の下で研究が進められました。櫻井和彦さん(むかわ町立穂別博物館学芸員)は、大学院の研究テーマとして網走標本に取り組みました。この度、ヨーロッパ古脊椎動物学会の機関誌“Oryctos”に、論文が掲載され、***Hokkaidornis abashiriensis*** という学名が確定しました。あたらしい学名がついた標本は完模式標本と呼ばれ、公的な研究機関・博物館に、永久に保存することが国際的に決められています。標本番号は、AMP44。足寄動物化石博物館の標本番号が44という意味です。

当館は、束柱類2標本(アショロアとベヘモトプス)、鯨類4標本(歯のあるヒゲクジラ4標本)の完模式標本を収蔵していますから、AMP44は7番目となります。新学名が決まったのを機会に、和名を変更することにしました。プロトプテルム網走標本の新しい和名は、「ホッカイドウムカシオオウミウ」とします。

足寄の化石とほぼ同じ時代の動物ですので、当時の北太平洋の生物の様子をよりくわしく示す資料として注目されます。



展示室のホッカイドウムカシオオウミウ

足寄動物化石博物館 開館から10年

開館以来10年間、足寄動物化石博物館はなにをしてきたのか、連載しています。

5 この10年にひろめたこと

「普及活動」は、博物館の資料や活動テーマと地域住民を結びつける重要な役割をはたします。足寄動物化石博物館が普及活動として力を入れて取り組んできたのは「あしよろ化石教室」です。

○あしよろ化石教室

化石は地層の一部として出現するので、化石を知る・研究することの第一歩は、まず「現地」について地層から化石を探し出すことから始まります。

開館以来、毎年2～5回、日曜日を利用して十勝平野や白糠丘陵の化石産地に出かけ、地層見学・化石探しをおこないました。ときには、骨格標本作製のために埋めていたクジラなど現生動物の骨を「発掘」したり、他館と共同で相互訪問をしながら宿泊しての日程を組んだこともありました。

参加者の傾向は、家族連れ。化石好きの小学生がいたり休日を野外で過ごそうという家族のレクリエーションだったり、参加者の志向はさまざまです。この数年は、1回の参加者が50名を超えるなど盛況である反面、主催者を含めてそれぞれの関係が薄い、という問題があります。参加者からは「中・上級者向け」の企画を望む声もあり、課題として検討を始めました。



休館日 || 9月 2日 9日 16日 24日(水) 30日

博物館の動き 9月 (館の行事や職員の動き、来館団体、など)

3日	別海町美原小学校のみなさん	10日	九州大学北方森林管理学実習のみなさん
4日	九州大学「フィールド科学入門」のみなさん	11日	上川中学校・高校のみなさん
5日	士幌小学校のみなさん 別海町上西春別小学校のみなさん	13日	北見北斗高校のみなさん
7日	あしよろ化石教室第3回	16日	上美生小学校のみなさん
9日	管内高校初任者研修	22日	音更小学校6年のみなさん
10日	釧路市城山小学校のみなさん	24日	音更小学校6年のみなさん
		25～26日	北海道博物館協会学芸職員部会
		28日	オンネット—物語